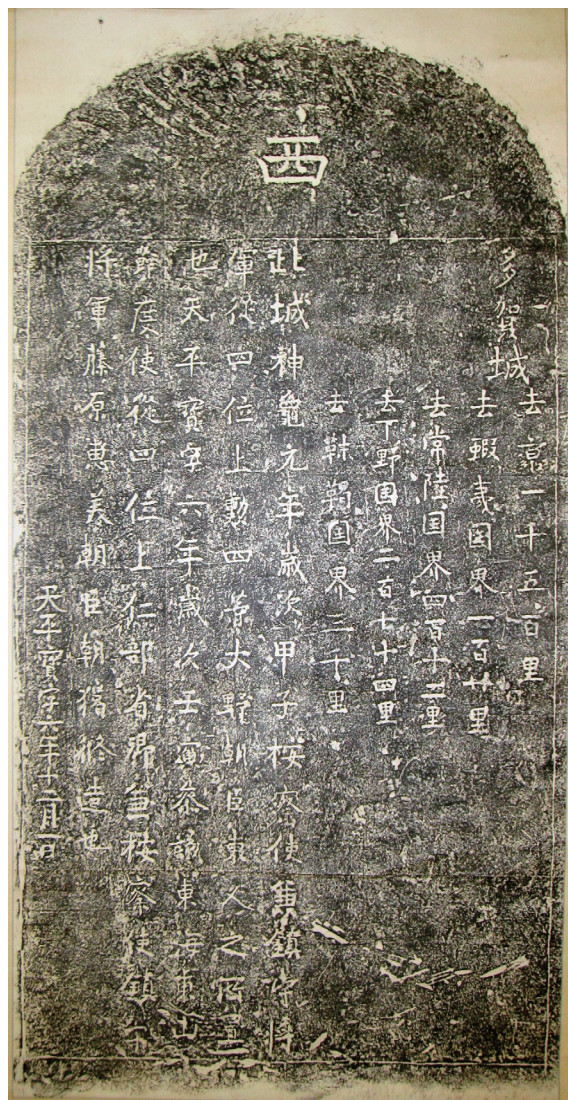


多賀城碑



＊軸物類1（2の1）「多賀城碑」

解説

多賀城は、現在の宮城県多賀城市に設置された、律令国家の広域地方機関です。蝦夷対策が重要な課題であった東北全体を軍事的・行政的に支配する役割を担い、その性格は九州全域を統治した大宰府に近いものでした。この多賀城に関する貴重な資料が多賀城碑です。

多賀城碑は、762（天平宝字6）年に藤原朝鸞（あさかり）の業績を顕彰するために建てられました。碑面には、首部に彫られた「西」を含めて141字が刻まれています。内容は、多賀城と京・蝦夷・常陸・下野・靺鞨（まっかつ）との距離や、同城が724（神亀元）年に大野東人によって設置され、762年に藤原朝鸞によって修造されたことが記されています。

また、この碑は近世に発見されたこともあって、かつては後世の偽作とする説が有力でしたが、近年発掘調査の成果をふまえた再検討がなされた結果、真作と判断されています。

17世紀中頃に文治政治に力をいれた仙台藩によって、「多賀城碑＝つぼのいしづみ」として歌枕に設定されると、17世紀後半には全国的に有名になりました。各地から多数の文人・学者・旅人たちが同碑を訪れ、名所図絵などにも奥州名所として紹介されていたのです。



＊写真上は、1781（天明元）年作成の多賀城碑の木版刷り案内です。山口町の有力商人で町役人も務めた安部四郎右衛門は、1805（文化2）年東北地方を旅行中にこの碑を見物したことを旅日記に記しており、その時に入手したと考えられます（安部家文書1414「奥州宮城郡市川村多賀城址壺碑図（木版刷）」）。